令和６年度　高浜市立南中学校　学校自己評価計画　　令和６年度５月版　№.1

学校教育目標	校訓「自己を高めよう」をめざし、知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てる	経営理念	使　命	自立した大人になるための基礎づくり
めざす生徒像	「将来を見据え、今の自分を作り上げていく生徒」 ・真剣に学び合う生徒・けじめのある行動をする生徒・自らの心と体を鍛える生徒		経営展望	「南中文化の向上」 学校に協力的な南中学校区の地域文化を基盤に、生徒の将来の自立に向け価値のある生徒文化と教師文化の質の向上を目指す。
めざす教師像	・生徒の前に立ち、生徒を正しい方向に導く教師　・生徒の横に寄り添い、生徒の心をしっかりと掴む教師　・生徒の後ろから、生徒の背中を押すことのできる教師			

評価計画　**６つの重点努力目標**　（中期経営目標を設定して１１年目）【新規☆7 年目】

「経営展望（**中期経営目標　４本の軸　a・b・c・d**）と「**特に重点的に取り組む２つのこと☆**」／「実現に向けての現状（進捗状況）（◇）」と「今年度の位置づけ（**◆短期経営目標・今年度の重点努力目標**）」

a　授業力向上	**b　学級経営力向上**	**c　集団の中で、課題を発見し解決する力をつけさせる指導力の向上**	**d　地域との協働によるまちづくりへの参画**	**☆特別な支援を要する生徒・不登校生徒に対する指導体制の充実**	**☆働き方改革の推進**
教師→教師	教師→生徒　生徒→生徒	生徒→生徒	地域←→生徒・教師		
◇主題研究を核にしてきたことで、教師同士の「学び合い」が日常的に展開している。 ◇ﾀﾌﾞﾚｯﾄ端末を活用し、授業方法や内容に多様性が見られる。 ◇公開授業後の「授業レポート」により授業者の授業分析力を伸長させ、「窓（生徒向け）」の発行により、教師と生徒が目指す「学びの姿」を共有できている。 **◆「学び合い」を通して学ぶことの達成感、充実感を感じさせ、将来の自立した学びにつながる授業を展開する。**	◇年間を通した「級訓を核とした学級づくり」への意識は、教師・生徒と共に育ってきている。 ◇教師は、学校行事の中で、個々の生徒や学級の特性に目を向けた指導・支援を心がけている。また、「南中らしさ」を大切にしている。 ◇生徒は、積極的に行動できたという自覚・自信がもてていない。 **◆「級訓」「学級目標」を明確にし、一人一人の個性を生かしながら、集団としての成長につながる学級経営を行う。**	◇生徒会や室長会などの活動において、生徒の自主性、主体性を尊重し、生徒自身の手で課題の発見、解決に向けて活動させようという教師の意識は高い。 ◇ミドルリーダーによって生徒会や室長会などの活動が支えられている。 **◆「生徒自治」の精神を継承・発展させ、学校生活全般にわたって、リーダーを中心に生徒主体で計画・運営・評価しながら活動できる機会、場を保証する。**	◇「南中学校支援者交流会」「高浜市文化協会の作品掲示」により、教育活動の中に、地域とつながる活動が位置づけられている。 ◇生徒・教師ともに街路樹ボランティアをはじめとする地域貢献活動への参加意欲は高い。 ◇現在、防災・健全育成の分野での協力体制の構築を進めている。 **◆まちづくりへの生徒の主体的な関わりの場を保障し、地域と協働して活動する中で、地域の一員としての自覚を高める。**	◇みなみ教室（不登校適応教室）、日本語指導教室、通級教室において、さまざまな困り感をもつ生徒への指導･支援の体制が充実しつつある。 ◇利用する生徒の満足度も高く、指導の効果を上げている。 ◇学級とは違う場所に生徒が通うことに理解を示す教師が増えた。 **◆支援指導方針を明確にし、全職員で共通理解し、支援を要する生徒の情報を共有し、段階的･計画的な指導を組織的に行う。**	◇時間外勤務月４５時間以内の実現に向けて、教職員への意識付けを図っている。 ◇教職員が自らの業務を見直し、積極的に年休取得をしようとする意識が育ってきている。 ◇教職員の働き方の現状を理解し、地域団体やＰＴＡが教育活動に協力的である。 **◆部活動時間の短縮、職員の年齢・性別・家庭環境などの変化に対応した無理のない働き方を推進していく。**

学校経営の４本の軸、および特に重点的に取り組むこと（**６つの教師が身につけたい力**）に対する考え方

a　授業力	b　学級経営力	c　生徒に課題発見・解決する力をつける指導力	d　他者と協働する力 （まちづくりへの参画）	☆支援を要する生徒に対する指導力	☆業務改善力 （働き方改革の推進）
授業は学校の教育活動の中心であり、授業力向上は学校全体の最重要課題である。個々の教師として、組織として存分に発揮できるようにする。特に若手教員の力量向上を目指す。	学級は教育活動を実施していく上での母体であり、生徒が社会性を育む上でも諸活動は大きな意味がある。その活動の中で、生徒の帰属意識・自己有用感が育つようにする。	将来、社会に出てさまざまな集団に属するようになる生徒にとって、仲間と共に課題を発見し、解決する力は必要不可欠である。意図的に課題が生じる場面・活躍できる場面を設定し、成就感・達成感を味わわせる。	地域社会の一員として中学生ができることは多い。地域で活動するさまざまな組織・団体と連携することで、生徒が活躍できる場を提供していくようにする。また、教師自身も地域貢献を自覚する。	集団の中で「一番弱い存在に視点を置いた指導」は、すべての生徒にとって有用であり、教師の指導力向上にもつながる。今年度は「多様性元年」と考えた取組を進め、全職員が支援者であるという意識をもって指導にあたるようにする。	教職員がライフ＆ワークバランスを保つことは、健全な学校運営につながる。教職員の働く意欲を尊重しつつ、過度の負担や無駄を省き、より効果的・効率的な在り方を見つけ、実行していく。